

七色の魔球を駆使し、オリックスでの14シーズンで2ケタ勝利7度を挙げ、2014年の沢村賞を筆頭に獲得したタイトルは、数え上げればキリがない。日本球界を代表する右腕・金子式大が2019年、北の大地に活躍の場を移す決断を下した。オリックス時代から親交のあるスポーツマンカーの田中大貴氏が、その胸に去来する想いを聞いた。

構成・坂本匠 写真・石井愛子、B.B.M

日本ハムのオフアに驚き 甘えられない環境を選択

——まずはファイターズへの入団、おめでとうございます。移籍記者会見(12月10日)はいかがでしたか。

金子 ありがとうございます(笑)。緊張しましたね。ああいう雰囲気の記事を見ました。一年目の入団会見以来、しかも登壇し

ているのは僕(と栗山英樹監督)だけで、何をしゃべっているか途中で分からなくなりまして。

——それは珍しいですね。でも、あの景色は確かにあまりないですね。どういふことを伝えたいと考え、会見に臨んだのですか。

金子 まず栗山監督がいさつして、それで、次に僕。ある程度は考えたいんですけど、こういうことをしゃべろうかな、と。でも、本当に全然楽しんで(苦笑)。あれ? 何しゃべるんだっつたんだけ? と。それで結構、問を空けて話をしたんですけど、妻に考えてきたことではなくて、そのときに頭に思い浮かんだことをしゃべれたという点では、それはそれで良かったかなと思います。会見で伝えたいことは、今月初めて移籍するにあたって、交渉の席での日本ハムからの情熱「来てもらったらこうなる」と具体的に話をしていたこと、そして必要とされていること、日本ハムでやりたいこと、思った正直な気持ちでした。北海道の皆さんがファイターズが好きだということ



▲12月10日に札幌市内のホテルにて入団会見を行った金子式大。同席した栗山英樹監督はその投球術、理論にぞっこんの様子(写真=素材提供)

『チームが勝つために』という、ことを一番に考えてきたつもりですが、1回、自分がどうしたいか考えようと思ったんです」

谷翔平(現エンゼルス、過去にも田中賢介さん、現日本ハム、元ジャイアンツほか)、建山義紀さん(元レンジャーズほか)とメジャーに選手を送り出している海外に目を向けることに寛容なチームで、指導者のメジャー派遣の実績もある。自分の個人的な今後のことを思い描いたときに、すく広がりを持てるんだな、お話を聞いた中で、もう1球団、同じように魅力的なチームがあった、すく広まりました。

——最終的に、北海道を選んだ決定打は何だったのですか。

金子 実は、もう1球団のほうはスタッフ、選手を含めて面識のある方が多くて、移籍したら受け込みやすいだろうな、という印象がありました。でも、オリックスで14年間やらせてもらって、ここ最近成績を残せていない自分があるので、思い切って本当にほほ誰も知らない球団に行くのも、自分にとってプラスになるんじゃないかなと考えました。

——甘えを排除した、と。

金子 そうですね。知っている人が多くいるところに行くと、甘えの出た自分の姿も想像できたので、そんなに長くはない残された野球人生、甘えられない環境に身を置くのもありなのかなとも思いました。

——甘えを排除した、と。

——交渉の席には栗山監督も同席したと聞きます。早速「ちひろ」と呼ばれたとか。

金子 そうですね(笑)。初めてそういう場で会ったとき、良い意味で距離感の近さを感じました。「一緒にやろうとすくに握手をされて、話していく中で、僕に来てほしいというのを、本当にストレートに伝えてくれるな、と。それに、初めて会ったとは思えないほど、僕のことを知ってくれている、そんなことを感じたのを感じています。

——その中で、今も胸に残っている言葉はありますか。

金子 一字一句合っているわけではないですけど、「来てくれる、来ないのはどちらでもいい。一緒にやりたい」と。矛盾はしているんですけど、そこに本気の気持ちを感じています。

Plus 1 Story 新天地・北海道の印象は?

チームへの愛情を感じる

ファイターズへの愛情を感じますね。札幌ドームで日本ハムを相手に投げて抑えていると、ファンの皆さんのため息とか、折るような気持ちをすくくダイレクトで感じて、「何か申し訳ないな」という気持ちになったこともあるくらい。ファイターズのピッチャーが3ボールにすると拍手しますよね? もちろん、ほかの本拠地でも熱烈な応援はあるんですけど、それとは少し違うというか、あそこまでファンの方の温かみを感じられる球場はありませんよね。



強かったです。

——オフアは意外だったんですか。

金子 意外だった中では、このようなお話をいただけて、うれしかったです。今までこのような選手補強をしてこなかったチームが、僕を欲しいと言ってくれたわけですから。

——複数球団が獲得に名乗りを上げた、と言われていたのです。選択する上での判断基準は何だったのですか。

金子 いくつかの球団からお話をいただいたのは確かです。判断基準ですか? 隠しているわけではないですが、メジャーに行きたい気持ちがあったので、それを考えたときに、実績のある球団という言い方は変な感じがしますが、日本ハムはドルビッシュ有(現カブス)をはじめ、大

つても、変なカベみたいなものはないのかなど。

僕がどうしたいのかメジャーを経験したい

——一般的に考えて、35歳で自由契約を選択しての移籍はリスクだと思われているが。

金子 自分以外の選手が僕と同じ状況にあるのを横で見たいとしたら、「移籍したらいのい」と、多分思っています。FA権を持つ選手とかを見ていても、「いろいろなチームでやったらいいのに」、「メジャーにどんな行つたらいいのに」って、思うんですよ。やっぱり、僕はメジャー・リーグに興味があるので、よく見るわけですが、向こうの選手は結構いろいろなチームを渡り歩く、それによってリーグ全体のレベルが自然と上がっているんじゃないか、と考えているんです。

——権利があるならどんどん移籍したらいいんじゃないか、と。

金子 はい。でも……いざ自分のことを考えると、ね。プロに入れたら自分の成績を残すこと、オリックスだからこれだけの成績を残すこと、やらせてもらったし、裏方さん、スタッフ、同じチームメイトと、1度でもいいから優勝したいという気持ちがあるから、第3者目線ではあれこれ思っていたのに、自分のことって思うと、なかなか答えが出な

